

ふらつき、転倒、頻尿 それ、年齢のせいじゃないかも？

名戸ヶ谷病院脳神経外科が特別チーム編成 特発性正常圧水頭症を治療

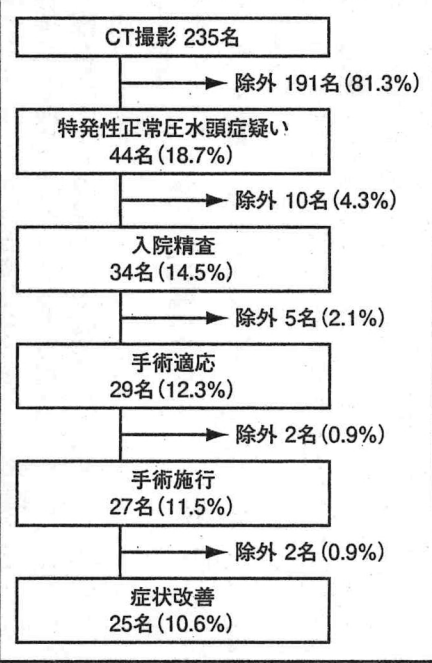
「最近、ふらつきが増えて転ぶこともある」「トイレが近くなった」「認知症の症状が強くなった」。本人やその家族がそう思い至る理由に「年のせい」はないだろうか。加齢によって足腰や内臓を支える筋力は低下しやすく、認知能力もまた落ちやすい。そのため、「年だから仕方ない」と諦めやすいが、果たしてこれが病気に起因するものだったらどうか。治療できて、改善できるとしたら。その原因のひとつが「特発性正常圧水頭症」だ。新柏にある名戸ヶ谷病院脳神経外科の大池涼医師(33)によると、同院で頭部CTを施行した60歳以上の患者235人中25人がこの水頭症の手術を受け、症状を改善させたという。実に10・6割が病気があったという事実を踏まえ、脳神経外科では、しられていないこの病気の認知を広め、治療によるQOL改善を推し進める特別体制を構築する考えだ。



特別チームを率いる大池涼医師

脳神経外科の井上靖章部長(33)によると、特発性正常圧水頭症は医学の世界でも認知されてまだ半世紀ほどだという。さらに言えば、諸症状とこの水頭症が結びつけられて治療に向かうケースは近年になってから。施術は多い施設で年間100例ほどだという。加齢による虚弱(フレイル)とみられるケースが多いようだ。

特発性正常圧水頭症スクリーニング 2020年5～10月 転倒並びに頭部打撲患者



治せる病気 患者多数看過の可能性

年10月1日時点の65歳以上の高齢者数は、11万2127人(柏市日常生活圏域データより)。1割でも潜在的患者は1・21・27人にあたる。そこで、井上部長は大池医師をリーダーに指名し、4年前から治療・研究を開始。2020年5月から10月に転倒によって頭部を打って来院した患者235人の頭部CTを行い、スクリーニング

したうえで、25人の治療を成功させた。同院単独のデータに過ぎないとしても、10割を超える事実が重い。なお、このデータは転倒で頭部を打った患者によるもの。転倒のみ患者は含まれておらず、やはり潜在的な患者が相当数見込まれるようだ。

「年のせいだと諦めないで」

名戸ヶ谷病院 大池涼医師

治療は頭部に溜まった水を逃がすもので、難易度は高くない。ゆくゆくは発症のメカニズムも解明させ、予防にも取り組む考えだ。大池医師によると、症状は時間を追うごとに悪化する。患者本人の自尊心を傷つけないと大池医師。いづれかの症状があったら、支える家族ら周囲も負担が増す。「治療で改善できるのに、多くの方が気づかず悪化させて傷つく。この病気は多くの方に気づいてもらう。」「治療場、診してほしい」と呼びかける。同院では症例を増やして、データを蓄積していき、他の病院やクリニックでの診断、治療に役立てる意向だ。治療が進めば、介護保険料軽減にもつながりうる。「高齢化する地域を支える医療を提供し、貢献していく。各医療機関とも連携していきたい」と井上部長。